

詐欺被害防止へ臨時窓口を設置

市安全・安心のまちづくり推進協議会（会長、山崎善也・綾部市長）は6月16日と26日、綾部警察署と連携し、固定電話での国際電話利用休止手続きの臨時窓口を市役所に開設しました。高齢者を中心に増加する詐欺被害の未然防止が目的。同署の警察官が利用休止申し込みを受け付け、不審な電話への注意を呼び掛けました。

同署では、休止手続きに関する相談や申し込みを随時受け付けています。詳しくは、同署☎(43)0110へ。



合同参観でつながり深める

何北中学校と物部・志賀小学校は7月2日、3校合同の参観日「何北ドリカムDAY」を同中学校（物部町）で開催しました。今回は「つながりを深める」をテーマに、児童・生徒が主体となって企画・運営。保護者や地域住民を招き、13の体験ブースで遊びやクイズなどをして、世代を超えた交流を楽しみました。

この取り組みは、交流を通じて、子どもたちにふるさとへの愛着を高めてもらうことを目的に実施。何北中学校ブロッカー貫教育の柱として、令和3年度から行っています。



水中・陸上・空中で水難救助訓練を実施

市消防本部は6月30日、由良川（味方町）で府警察本部機動隊や航空隊、綾部警察署などの関係機関と合同で水難救助訓練を実施しました。訓練には、約60人が参加。水没者の捜索救助＝写真①＝のほか、河岸への救出が困難な場合を想定した橋上への吊り上げ救助＝写真②＝や府警察ヘリによる救助＝写真③＝など、多種多様な訓練を行い、有事に備えて連携強化を図りました。



豊里小でダブルダッチ教室

豊里小学校（栗町）で6月23日、2本のロープを使った縄跳び「ダブルダッチ」の教室が行われました。教室は、トップアスリートを派遣する府の事業を活用して開催されたもの。京都市を拠点に活動するプロチーム「NEWTRAD」の5人が講師として来校しました。

5、6年生の児童たちは、メンバーのサポートを受けながら実際に競技を体験。練習を重ねるたびスムーズに跳べるようになり、楽しそうな笑顔を見せていました。6年生の大浦芽久さんは「見ていて楽しいし、やっても楽しいスポーツ。技で自分を表現できるのも魅力だと思った」と声を弾ませました。



学校内に安心できる居場所を

市教育委員会は本年度、綾部小学校（上野町）に校内教育支援センター「なごみルーム」を開設しました。校内教育支援センターとは「登校しにくい」「学校に行けても、教室に入りにくい」といった児童や生徒が利用できる部屋のことで、校内に居場所を設けることで、不登校の未然防止や登校のハードルを低くするなどの役割を担います。

なごみルームには、常駐の支援員を配置し、児童一人一人に応じて心理面や学習面をサポート。学校生活での緊張・不安を取り除き、社会的自立を後押しします。



色鮮やかな絵画展開催

あやべ水無月まつり実行委員会は6月25日から7月13日まで、図書館（青野町）で絵画展「水無月ギャラリー」を開催。市内のこども園など9園の園児が思い思いに描いたあやべ水無月まつりの絵を展示しました。会期中の7月1日には、物部保育園の5歳児11人が来館。色とりどりの作品を観覧し、まつりの開催を心待ちにしていました。

7月16日から31日まで、会場を変えてI・Tビル1階（西町一丁目）に展示しています。子どもたちの力作をご覧ください。



黄色にライトアップし啓発

“社会を明るくする運動”綾部地区推進委員会は6月28日から7月4日まで、あやべ・日東精工アリーナ（市民センター・西町三丁目）をシンボルカラーの黄色にライトアップ。犯罪や非行のない明るい社会を築くため、7月の同運動強調月間に合わせて、初めて行いました。





伝統産業「黒谷和紙」

大阪・関西万博で 国内外にPR

市は6月23日から29日までの1週間、大阪・関西万博「関西パビリオン京都ゾーン」に黒谷和紙を出展。訪れた約1万人に本市の伝統産業の魅力を発信しました。



丹後ちりめん職人による和紙を使ったストール



劣化せず美しさを保つ和紙製の本



実際に原木に触れる来場者



身近な暮らしに和紙を

会場には生成りの和紙のほか、財布や名刺入れなどの民芸品、丹後ちりめんの職人が和紙の糸と絹糸で織った布やストールを展示。手漉きの伝統を守りつつ、時代とともに変化し続けている黒谷和紙の挑戦と可能性を表現するとともに、身近な暮らしに和紙を取り入れることを来場者に提案しました。

また、黒谷和紙協同組合と観光協会のホームページにアクセスできる二次元コードを記載した和紙カードも配布。黒谷町での紙漉き体験や本市での旅行プランなども紹介しました。

触れる展示で魅力発信

ブースの特徴は、普段目にするのではないものや、貴重なもので「触れる展示」にしたこと。和紙の原材料であ

る楮の木や劣化せず美しさを保っている50年前に作られた和紙の本などを展示しました。来場者は、実物を手にしながら▽楮の黒い皮を削いだ、白い皮が主原料▽手漉き和紙は長い繊維が複雑に絡み合うため丈夫▽劣化しにくいもののみで製造されているため長期保存に向いている▽文化財修復にも重宝されている▽コースターなどの加工品やストールは多少の水濡れにも強いーなど、製造工程や活用方法、特長などの説明に聞き入り、和紙の魅力を発見していました。



10月には「茶」を出展

本市からは10月1日に、市茶生産組合と連携して特産品の「茶」を出展する予定です。茶を使ったスイーツの販売、茶の美味しい入れ方体験など、本市の魅力をアピールし、観光誘客につなげます。